

学校教育目標	心豊かにたくましく自分を表現する子を育てる
基本方針	『全力つくせ 君が主役だ 喜須来っ子』を合言葉に、自分の考えをしっかりと持ち表現する力、他人の立場を理解しながら自分自身も大切に子どもたちを育てる。心も体も元気で、自信を持って行動できる子どもたちの育成を目指す。 1 まごころの教育をベースとし、児童一人ひとりが「自分らしさ」を大切に、心から自分の気持ちを表現できるよう、愛情を持って指導する。 2 児童が自ら考え、話し合いながら深く学ぶ授業を展開し、自主的に活動し成長する環境を整える。 3 児童の活動を家庭や地域に向けて積極的に発信し、地域社会に貢献する学校作りを目指す。

A…成果が十分上がっている

B…おおむね成果が上がっている

C…あまり成果が上がっていない

D…成果が上がっていない

○ 成果

● 課題

☆ 継続点及び改善点

項	評価項目	教 諭 評 定	保 護 者 評 定	児 童 評 定	成果と課題	継続点及び改善点
確かな学力の定着と向上	個に応じた分かりやすく丁寧な授業ができたか。	A	A	A	○ 児童の実態に合わせ、定着するまで繰り返し学習をすることで、基礎学力が向上した。 ○ 学級の時間でタブレットをよく活用しており、タイピング力や操作力が上がっている。専科指導でも活用しやすくなった。 ● 読書活動に取り組むよう声を掛けたが、個人差が大きかった。	☆ ICT機器を授業の中で効果的に活用することで、自己表現が苦手な児童も意欲的に活動に参加できるようになった。引き続き効果的な活用に取り組んでいきたい。 ☆ 全員で本借りをする日を設定したり、読み聞かせを充実させたりしていきたい。
	授業中、積極的に挙手し、「自分の考えが言える」児童を育てようと努めているか。	A	—	B		
	児童は家庭学習に自主的に取り組んでいるか。	A	A	A		
	授業の中でICTを効果的に活用できたか。	A	—	—		
	児童は読書活動に取り組んでいるか。	A	C	B		
心の教育の推進	資料や発問を工夫するなどして、考え議論する道徳の充実に努めているか。	B	—	—	○ 1日の中で、友達やクラスのために動いた児童見付ける活動を取り入れた。友達よさに気付く児童が増え、自分自身も誰かのために行動しようとする姿勢が見られるようになった。 ● 挨拶が十分身に付いている児童も多くなってきたが、元気のない児童もいる。 ● 考え議論する道徳授業が十分ではなかった。	☆ 児童会主体の挨拶活動週間を継続する。また、職員が児童に対して率先して挨拶をする。 ☆ 道徳の授業において、自分事として考えることができる発問を工夫する。
	心の居場所としての学級づくり、認め合い、支え合う温もりのある人間関係づくりに努めているか。	A	—	—		
	児童は相手に伝わる挨拶ができるようになっているか。	C	B	A		

生徒指導の徹底と健全育成	日記指導や教育相談等を活用して、いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、児童との信頼関係づくりに努めているか。	B	A	A	<p>○ オンライン調査ツール「やわたはま元気ノート」により、事案の早期発見、早期対応に向けて教職員が意識して行動している。また、その後の教職員間での共通理解もでき、チーム対応することができている。</p> <p>○ 週末の日記を宿題とすることで、校外や家庭での児童の様子を把握することができた。</p>	<p>☆ オンライン調査ツール「やわたはま元気ノート」が児童の人間関係を見つめなおすよいきっかけになっている。入力結果をもとにした教育相談、職員間での情報共有までをきちんと行い、児童の健全育成に努める。</p>
	児童は善悪の判断を身に付け、きまりを守って生活しようとしているか。	A	A	A		
特別支援教育の推進	特別支援教育の推進体制を整え、個に応じた指導や支援の充実ができたか。	A	—	—	<p>○ 特別支援学級の児童にとって、交流学級が自分らしくいることができる場となっている。教職員や交流学級の児童が、前向きに特別支援学級児童の言動を捉え、関わっているからだと思う。</p> <p>○ 通級指導が機能し、よりきめ細やかな支援体制になった。</p>	<p>☆ 特別支援学級児童のとの交流を通して、通常学級児童も成長させるという視点を常に持つておく。</p>
	特別支援教育について家庭・地域への啓発を積極的に進めているか。	A	—	—		
健康安全教育の充実	「早寝・早起き・朝ごはん」など、正しい生活習慣の定着に努めているか。	A	B	A	<p>○ 高学年は、メディアコントロールチャレンジを実施し、メディア時間を減らすという目標だけでなく、その時間を有効活用する取組となり、意欲的にチャレンジしている。</p> <p>○ 喜須来っ子まんてんリズムカードがあることで、児童は規則正しい生活を意識しながら過ごすことができている。</p> <p>● 家庭での正しい生活習慣が定着するよう声を掛けたが、個人差が大きい。</p>	<p>☆ 個人差に対応するため、個人懇談等で家庭での正しい生活習慣が定着するよう声を掛けた。保護者への協力を求めつつ、本人にも引き続き指導していきたい。</p>
	安全指導の充実と工夫により、生命尊重の意識の高揚を図っているか。	A	A	A		
	児童の体力向上、健康管理に関する指導は充実しているか。	A	B	A		

安全・安心な学校づくり	校内外における見守り隊活動を始め、地域ぐるみの安全確保に取り組んでいるか。	A	—	—	<p>○ 事前予告なしでの避難訓練は、児童、教員にとっても新たな学びがあった。また、今回のように、実施後に課題を全員で共有することがとても大切だと感じた。</p> <p>○ いろいろな避難、防災訓練を計画・実施することにより、少しずつ防災意識が高まってきた。一人きりの時でも対応できるよう、引き続き指導を続けていきたい。</p>	☆ 避難訓練を振り返ることによって見えてきた児童の動き、教職員の動きに関する課題に取り組んでいきたい。
	定期的な避難、防災訓練の実施により、児童や教職員の安全・防災意識を高めているか。	A	A	—		
特色ある学校づくり	「五つのシーン」（放送、読書、掃除、集会集合、集団下校集合）を児童に浸透させようとしているか。	A	—	—	<p>● 五つのシーンのうち、掃除に取り組む際の私語が止まない。その原因として、昼休みから掃除への切り替えができていないことが挙げられる。「掃除の放送が鳴り始めたら、口を閉じて掃除場所へ移動する」といった、分かりやすい全校でのきまりがあるとよいと感じる。</p>	<p>☆ 「掃除の放送が鳴り始めたら、口を閉じて掃除場所へ移動する」ことの大切さを指導し、定着を図る。</p> <p>☆ 五つのシーンにおいて、教師自身の指示も極力減らす。</p>
	総合的な学習の時間の充実を図り、「生きる力」の育成に努めているか。	B	—	—		
	豊かな体験活動により児童一人一人のまごころをはぐくみ、「心の教育」の充実を図っているか。	A	—	—		
教職員の資質導力の向上	校内研修を計画的・意欲的に行い、そこで得た成果や資料等を教育実践の場に生かしたか。	A	—	—	<p>○ 校内研修を計画的に実施することができた。どの教員も研究授業に熱心に取り組み、成果を上げた。</p> <p>○ 研修通信が職員の資質向上につながった。</p>	☆ 研究授業で指導されたことを今後の授業に役立てることができている。継続したい。
	社会人、組織人としての資質向上に努めているか。	A	—	—		

家庭・地域社会との連携	家庭訪問、電話、学級だより、連絡帳等を通して家庭との連携を密にし、信頼関係づくりに努めているか。	A	A	—	○ 児童の体調面や、諸課題について、家庭と密に連携を取ることができた。	☆ 保護者からの連絡等には関係教職員との報連相をしっかりと行い、迅速に対応することを継続したい。
管理運営の充実・その他	綱紀粛正と不祥事や事故の防止に努め、信用失墜行為の予防に努めているか。	A	—	—	○ 管理職が意識的に早く帰る姿勢をリードしているので、職員にも意識付いてきた。 ● 仕事量が多い時期は、勤務時間が長くなってしまふ。仕事の組立を計画し、効率化を図りたい。	☆ 毎週水曜日は声を掛け合いながら、定時退庁を行う。
	心身の健康管理に努め、ワークライフバランスを考えた勤務時間に努めているか。	B	—	—		